

みんなで考えよう JR留萌本線の現状と今後②

市では、皆さんと共に最適な地域交通のあり方について考えていくため、JR留萌本線の現状などに関する情報を発信しています。

問 市・政策調整課 ☎ 42-1809



JR留萌本線の特性と現状

JR留萌本線は、留萌、深川間の都市間を結ぶ50・1キロメートルの運行路線です。

明治43年に開業以来、かつては留萌炭田の諸炭鉱や沿線の森林資源の開発に大きな役割を果たすなど、地域における重要な輸送手段として貢献し、市民にとっては、深川市を經由し、旭川行き又は札幌行きの特急に乗り換えることで、日本海沿岸地域と都市間を結ぶ交通手段として、多くの利用がなされてきました。

しかし、近年では、沿線人口の減少や、高規格道路の整備等に伴う自動車や都市間バスなどの利用の増加により、鉄道の利用が大幅に減少しており、線区の収支については、年間約6億4千万円の赤字（平成30年度実績）が生じています。

JR北海道は、利用者の減少のほか、老朽化したレールや橋梁があり維持管理に苦慮している状況により、維持困難な路線として見直しの考えを表明し、留萌本線を維持するために、約6億4千万円の年間赤字のほか、車両更新費（年間約4千万円）、老朽化した橋やトンネ

ルなど、建設から60年以上を超える土木構造物の老朽対策費（年間約1億5千万円）を合わせ、年間約8億3千万円（平成30年度実績）の負担が必要とされています。

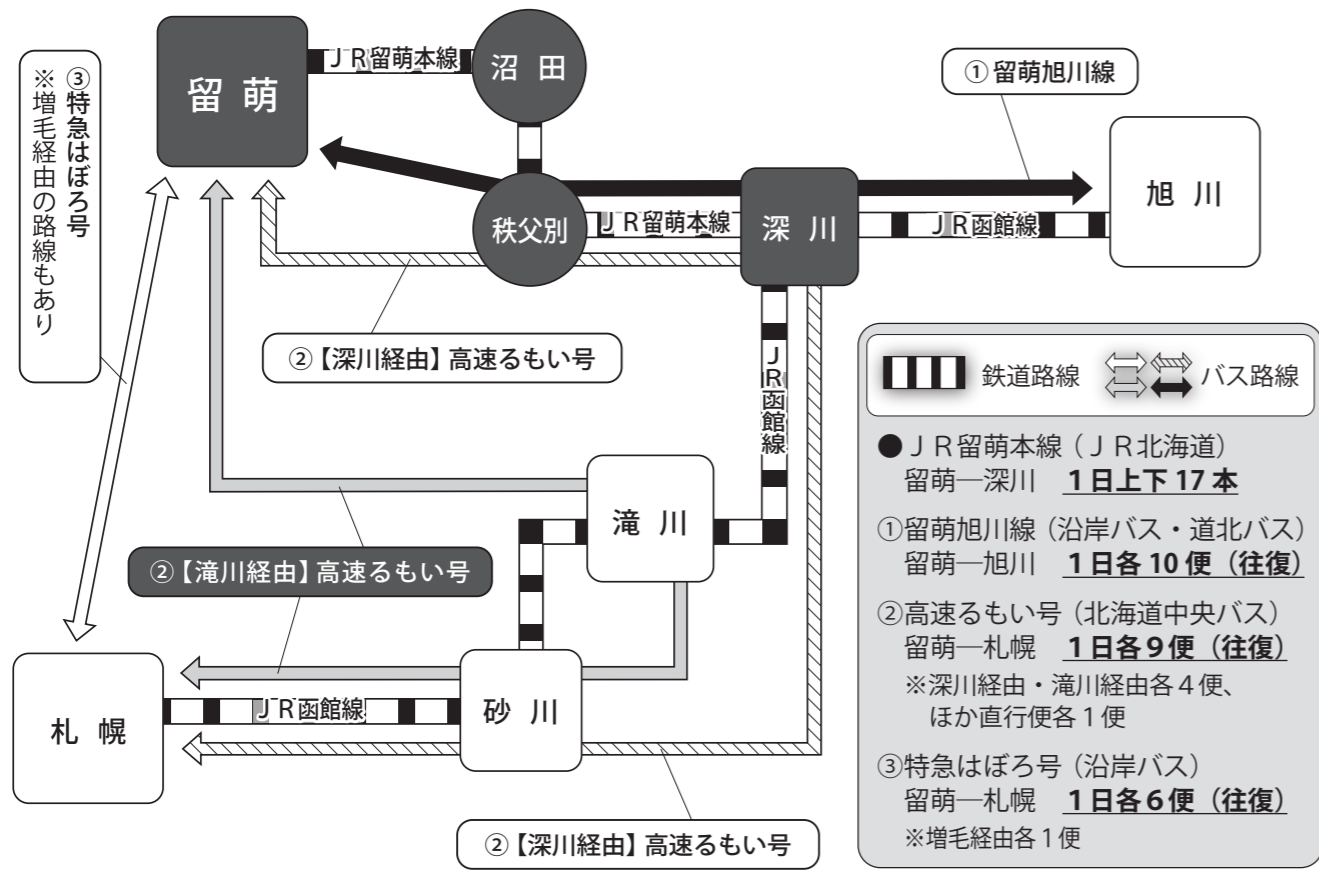
地域交通の現状

留萌市と都市間を結ぶ交通手段としては、鉄道と並行する旭川までの都市間バスや、札幌までの高速バスが、バス事業者により運行されています。（下図参照）

特に、留萌、旭川を結ぶ都市間バスは、「地域間幹線系統」に位置付けられ、地域住民の生活と密接な交通手段として国や道の支援により輸送が確保されていますが、近年のバス運転手の高齢化や担い手不足、人口減少に伴う乗車人数の低下により、道内各地域においても減便を余儀なくされており、深刻な問題となっています。

今後、バス路線についても維持確保に向けて、新たな地域課題としての対応が必要な状況が予想されます。

留萌市と都市間を結ぶ交通機関



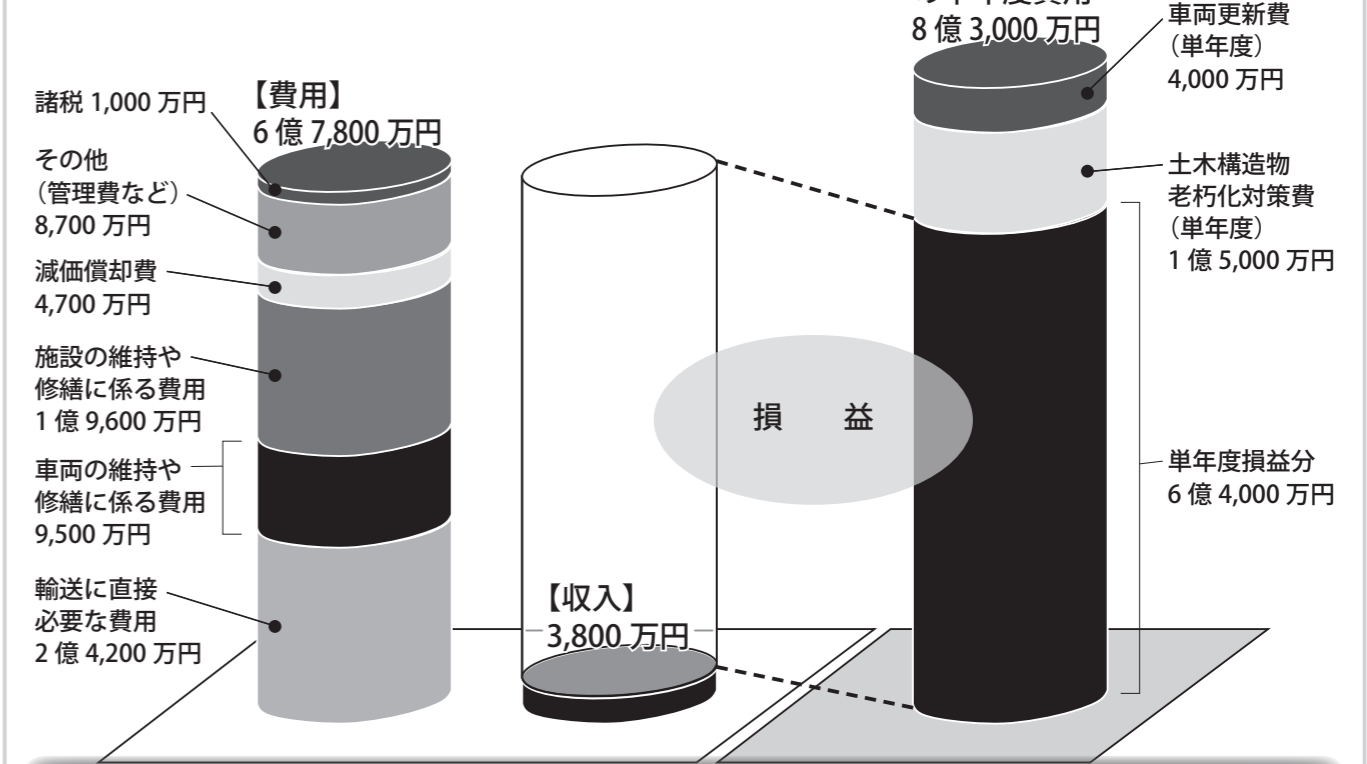
地域として今できること・考えること

JR留萌本線は、都市間を結ぶ重要な路線ですが、市民の利用については、市外への通学、通勤と一部の限定的な利用にとどまっており、今後の人口減少や、高齢者中心の人口構造の変化により、都市間での利用を新たに促すための拡大策を講じていくことは難しい状況にあります。

この地域に長く住み続ける上で、将来における生活交通手段の確保について、今、何を守り、どのような交通体系の確保が必要かを考えることが重要であり、鉄道についてもその選択肢の1つです。

鉄道の存廃問題については、広域的な課題でもあるため、今後、沿線地域で結論を導き出していく必要があります。ただし、皆さんが住民の目線で自らの積極的な取り組みの中から、利用を高めていくための方策や、地域にふさわしい持続的な広域移動手段について考えていくことが必要です。

線区を維持するための費用（平成30年度）



鉄道を維持するためには、年間およそ8億3,000万円の費用が必要です。